

但馬地方の昆虫相に関する文献資料(2)

高橋 匡*

半翅目

1. 高橋寿郎: 兵庫県の実翅亜目(2). きバリはむし, Vol. 3, No. 2 (1974).
「兵庫県の実翅亜目(1)」も「きバリはむし」の何号かに記載されているはずであるが、手元にない。ゲンバイムシ科12種、トコジラミ科1種、メクラカメムシ科32種、ハナカメムシ科8種が記載されているが、このうちメクラカメムシ科10種に氷ノ山の記録がある。
2. 高橋寿郎: 兵庫県の実翅亜目(3). きバリはむし, Vol. 4, No. 1~2 (1975).
サシガメ科23種中11種、マキバサシガメ科7種中3種、ヒラタカメムシ科5種中2種に但馬地方の記録がある。
3. 高橋寿郎: 半翅目(中国山脈東端の昆虫相). 東中国山地自然環境調査報告(1974).
ツチカメムシ科6種中4種、マルカメムシ科3種中2種、カメムシ科20種中14種、ツノカメムシ科9種中6種、ヘリカメムシ科11種9種、ナガカメムシ科13種中8種、ヒラタカメムシ科5種中4種、サシガメ科10種中7種、マキバサシガメ科4種中3種、メクラカメムシ科16種中12種、アメンボ科1種、ミズムシ科1種、セミ科9種。

膜翅目

1. 内藤親彦: 扇ノ山の葉蜂類(I). 兵庫農大生物研究部誌, No. 3 (1963).
クビナガキバチ科2種、ヨフシハバチ科3種、コンボウハバチ科4種、ヒラタハバチ科7種、ミフシハバチ科3種。
2. 仲井啓郎: 扇ノ山の蜂類(1). 兵庫生物, Vol. 6, No. 5 (1968).
ハバチ科4種、コンボウハバチ科1種、ミフシハバチ科1種、シリヤゲコバチ科1種、アシブトコバチ科1種、ツチバチ科4種、コツチバチ科1種、アリバチ科2種、セイボウ科2種、スズメバチ科11種、バグコウバチ科5種、ジガバチ科12種、コハナバチ科2種、ハキリバチ科2種、ミツバチ科6種。

* 現住所:(668)兵庫県 豊岡市

3. 奥谷 稔一：膜翅目（中国山脈東端の昆虫相）。東中国山地自然環境調査報告（1974）。

ヒラタハバチ科5種、キバチ科1種、クビナガキバチ科5種、クキバチ科1種、ヨアシハバチ科3種、ハバチ科121種、コンボウハバチ科6種、ミフシハバチ科8種。

蜻蛉目

1. 高橋 匡：蜻蛉目 第1報（但馬文教府昆虫標本目録）。文教府資料（1967）。

イトトンボ科6種、モノサシトンボ科1種、アオイトトンボ科3種、カワトンボ科2種、サナエトンボ科5種、ヤンマ科8種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科1種、ヤマトンボ科1種、トンボ科17種。

2. 松本健嗣：蜻蛉目（中国山脈東端の昆虫相）。東中国山地自然環境調査報告（1974）。

アオイトトンボ科2種、カワトンボ科3種、ムカシトンボ科1種、サナエトンボ科10種、ムカシヤンマ科1種、ヤンマ科4種、エゾトンボ科1種、トンボ科12種。

以上、手もとにある資料について概略を紹介したが、はじめにも断ったとおり、焼失したもの、筆者がまだ見ていないもの、見逃したものが多くあると思う。それ等については今後「補遺」として報告するつもりであるが、おもなものは大体紹介できたのではないかと考える。

全体を通してみると、かなり調査の進んでいるものは、鱗翅目、鞘翅目でこれに次いで半翅目中の翼翅亜目、膜翅目中の広胸亜目、蜻蛉目などで、地域としては米ノ山、扇ノ山にほとんど限られているようである。

今後の調査の方向としては、直翅目、双翅目、膜翅目の細膜亜目、半翅目の同翅亜目、脈翅目、毛翅目などに目標を拡大するとともに、但山地、平地、河川域、海岸部と調査地域をひろげ、更に今までのデータが盛夏に集中している点を考えて、春から初夏、晩夏から初秋と季節を変えて調査する必要がある。

なお、できれば、昆虫と植生の関係についてレシバ、特に開発の進められつつある地域や、交通機関などにより、外部から昆虫や植物が移入しやすい地域における昆虫相を定期的、定量的に調査することも有意義である。

今後、但馬地方の昆虫愛好者自身の手によって、但馬の昆虫相が解明されることを切望するものである。なお、当然のことながら、データは正確でなければ

ならないし、必ず「標本の裏付けが」必要で、目撃記録のようなあいまいなものはつとめて避けるべきである。

IRATSUME 3:6-7 (1979)

但馬地方の昆虫相に関する文献資料 (補遺 1)

高橋 匡

手もちの文献を整理しているうちに 2~3 の資料がみつかったので報告しておく。

1. 山本茂富： 妙見山資料館奉納。妙見山昆虫採集目録。(1962).
蜻蛉目 3 科 7 種、半翅目 セミ科 4 種、鱗翅目 が 亜目 8 科 13 種、チョウ 亜目 8 科 36 種、膜翅目 6 科 16 種、鞘翅目 20 科 73 種が記載されている。
2. 妙見山資料館： 妙見山生物資料館報 (第 2 号)。(1963).
昆虫として、蜻蛉目 2 科 5 種、鱗翅目 が 亜目 10 科 39 種、チョウ 亜目 6 科 14 種、鞘翅目 6 科 20 種が記載されているが、前掲の資料と重複した種がある。
3. 妙見山資料館： 妙見山資料館報 (第 3 号)。(1964).
昆虫として、蜻蛉目 6 科 16 種、脈翅目 3 科 5 種、半翅目 4 科 11 種、鱗翅目 が 亜目 18 科 74 種、チョウ 亜目 8 科 46 種、膜翅目 8 科 39 種、鞘翅目 23 科 86 種が記載されている。
4. 豊岡高等学校生物部： 氷の山系植物・昆虫目録。(1964).
副題として「養父郡関宮町、大屋町を中心として」となっているが、内容を見ると取にあげた「NATURA」や「兵庫生物」の資料をひき写したもののらしい。「但馬山岳博物館資料」となっているところから、そのような施設建設の陳情に用いたものと思われる。従って資料が重複するので省略する。
5. 辻 啓介： 兵庫県のカミキリ。月刊むし 10 号。(1972).
兵庫県下のカミキリムシ科の分布についての概説であるが、その中に「氷